

- 1 派遣期日 平成28年8月1日(月)～8月2日(火)
- 2 研修先 学校名 筑波大学附属小学校
所在地 東京都文京区大塚3-29-1
<http://www.elementary-s.tsukuba.ac.jp/>

3 研修内容

体育授業におけるアクティブ・ラーニング
ー不易と流行を考えるー

- (1) 新学習指導要領における体育の動向 桐蔭横浜大学 佐藤 豊 教授

① 新学習指導要領の動向

学習指導要領の改訂については、現行学習指導要領における考え方をさらに推進するという立場から、学習指導要領を構造化するという方向性が示された。その上で、教育課程全体の構造の可視化と各教科の往還をどのように図るかという整理(カリキュラム・マネジメント)及び18歳で身に付けるべき資質・能力からみた小中高の指導内容の体系化という視点での整理を図っている。学習する知識・技能を単に暗記や習得のレベルで捉えるのではなく、必要感や実感を伴い「腑に落ちる」というイメージの「深い学び」や「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び(アクティブ・ラーニング)」の必要性が話題となった。日本の教育は、社会を形成し、支える全人格をバランスよく育む場として、知・徳・体のバランスのよい学習の質と機会を提供することが重要であり、体育科・保健体育科には、これらを内包した教科特性である。

② 体育科・保健体育科の動向

2015年教育課程企画特別部会における「体育科・保健体育科の論点整理」では、①共生社会の形成に向けた障害者理解の促進を明確に位置付け、交流学習等の更なる充実(インクルーシブ)②各学校段階を通じて、運動やスポーツへの関心を高め、「する・みる・支える」などの多様なスポーツとの関わり方を楽しめるようにしていくこと(ダイバーシティ)③他教科等における学習とも連携しながら、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成果を未来への遺産として子どもたちの中に根付かせていくための学びを充実させる(レガシー)。等の論点が示された。高校卒業時のゴールイメージをもちつつ、各校種で育てるべき資質・能力を育成していくことが重要である。学習指導要領の具体的な改訂の作業については、今後進行していくものと考えられるので、今後の改訂の動向を更に見守る必要があるが、いずれにしろ、現学習指導要領への具体的な取り組みが十分でないまま、新たな取り組みは考えられない。改訂過程での憶測や予測的な解釈によって、教育の混乱が生じることも考えられる。「Think Global, Act Local」と言われるように、社会の変化を大観しつつ、体育という私たちが信じる教科の充実を通して、目の前の子どもたちと向き合い、なすべきことを確実に行うという姿勢こそが、今求められているものと思う。

(2) 公開授業参観

- ① 第1学年 体育科指導者 齋藤 直人
- ② 研究主題 体育授業におけるアクティブ・ラーニングとは何か。
～「資質・能力」と「教育内容」を繋ぐ「方法」として～
- ③ 運動教材 ジャンケン対抗戦、頭つき壁逆立ち、2人でキャッチボール
- ④ 本時の指導

〔目標〕

- ・ 仲間の応援をしながら、全力で運動に取り組むことができる。
- ・ 運動のポイントを理解し、アドバイスやお手伝いができる。
- ・ 安定した逆さ姿勢がとれたり、片足を前に出してボールを投げたりすることができる。

[展開]

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>○ジャンケン対抗戦を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャンケン対抗戦。男女対抗戦で行う。 ・スタートの合図で、指定された動きで進み、男子は女子、女子は男子とジャンケンをする。 ・3回勝ったらゴールに並ぶ。 <p>※走る、片足ケンケン、スキップ、クマ走り、トンネル、両足ジャンプを扱う。</p> <p>○頭つき壁逆立ちを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員で集合し、方法を確認する。 ・動きのポイントについて考え、確認する。 ・ポイントを意識して、班ごとに運動に取り組む。(目標：お手伝いありで10秒) <p>○2人でキャッチボールを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2人1人組でキャッチボールを行う。 ・上手な仲間を見て、投げ方・捕り方を確認する。 ・30秒間に何回キャッチボールができるかに挑戦する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な内容から取り組ませる。 ・最後まで全力を出させる。 ・動き、態度、応援の良い児童を褒める。 ・安全面に注意しながら活動を進める。 <p>○お手本を見せるときに観点を与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手と頭の位置について、注目させ、共通理解をはかる。 ・お尻を上げるタイミング、お手伝いの方法について確認する。 <p>○お手本を見せるときに観点を与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体の向きと足に注目させる。 ・投げる手と反対の足を一步前に出す。 ・キャッチは正面を向く。

*以下テーマのみ

- ・ 清水 由
「水泳領域の学習を考える」
- ・ 榮真里耕太
「アクティブ・ラーニングと水泳授業で大切にしたいこと」～「できる」ことが意欲を高める～

(3) 実技指導

- | | |
|---------------------------|------------------|
| ・授業に役立つ表現・リズムダンス | 千葉大学 七澤 朱音 |
| ・陸上運動への動き作り | 名古屋市立高木小学校 坂野 由彦 |
| ・ゴール型 3・4年 魔王ゲットゲーム | 天理大学 木下 光正 |
| ・なわとび運動の技能と指導力を高める | 十文字学園女子大学 山本 悟 |
| ・マット運動「連続技づくり」 | 元筑波大学付属小学校 林 恒明 |
| ・鉄棒運動 後半の動きの体験から全体の動きの学習へ | 桐蔭横浜大学 松本格之祐 |

5 感想

- ・筑波大学付属小学校の体育の授業は、1時間の中に複数の単元を取り入れ学習を行っている。今回の1年生の授業では、「体づくり運動」→「マット使った運動遊び」→「ボール投げ」の流れで展開していた。45分をどのように扱うか、児童に何を身に付けさせたいのか、授業者がしっかりとゴールを見据えていることがとても参考になった。1年生の段階でも、「充実した運動学習場面+意味のある思考場面（考えながら活動する場面）を意識することで授業がアクティブになっていくと感じた。
- ・今回のテーマでもあるアクティブ・ラーニングについては、今回の改訂以前から体育・保健体育科の授業はアクティブ・ラーニングを自然と取り入れていると言われているが、今回の研修会に参加し、今まで以上に児童が能動的に体育の授業に参加していくことが大切だと感じた。これからの授業に生かしていきながら児童がよりアクティブに活動できる場の設定や、課題の設定などこれから研究していきたい。
- ・桐蔭横浜大学 佐藤 豊 教授の講演を聴いて、現在、新学習指導要領の改訂作業を行っている段階だが、改訂の動向に耳を傾けながら、日々の教育活動に専念していきたいと思う。